目次

はじめに・・・

はじめに

油吸着材は、油濁事故が起きた際によく使われる資材の１つです。しかし、誤った使い方をすると、かえって被害が拡大することもあります。いざ、油吸着材を使用する場合に備え、油吸着材の正しい知識と使い方をご紹介します。

１．油吸着材とは何か

海上に流出した油を吸収又は付着させ回収するための資材です。材質はポリプロピレン等の化学繊維、綿などの植物繊維、木質系の天然素材を材質としたものがあります。

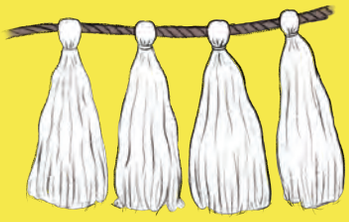
２．油吸着材の種類・特徴

形状は、シート型、ロール型、吹き流し型、万国旗型、ポンポン型、フェンス型などで、メーカーにより様々なものが製造されています。

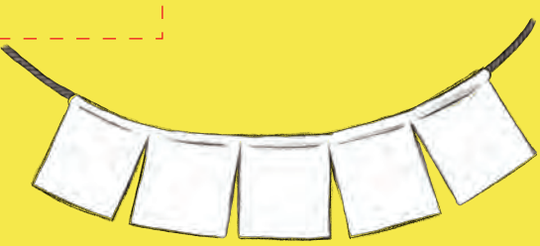
流出油の種類（Ａ重油・Ｃ重油等）、状態（粘度 *、厚さ等）によって使い分ける必要があります。

シート型
扱いやすいサイズに裁断されたもの。低粘度油対応のものが多い。

ロール型
円筒形に巻き取られたもの。低粘度油対応のものが多い。

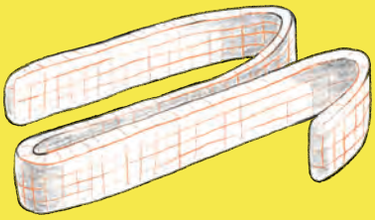


吹き流し型
細かい繊維状の吸着材をロープで一つなぎにしたもの。低粘度油から高粘度油まで対応したものが多い。



万国旗型
シート型の吸着材をロープで一つなぎにしたもの。低粘度油対応のものが多い。

ポンポン型
ポリプロピレン製で油を絡めて回収することのできるもの。高粘度油専用。



フェンス型
油吸着材をネットでくるんだもの。低粘度油から高粘度油まで対応したものが多い。

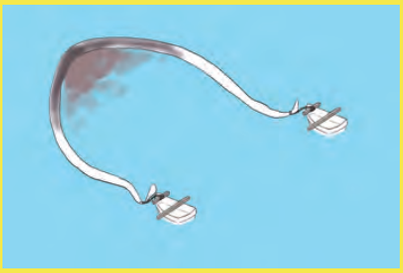
＊粘度のイメージ　　低粘度：水、ウスターソース　　高粘度：水飴、マーガリン

3．油吸着材の使用方法・注意点

海上で使う場合、沿岸部や港内等局所的な海域で使用すると効果的です。

シート型の油吸着材の使用に際しては、オイルフェンス（OF）等で流出油を包囲してから、散布し流出油を吸着させて回収するようにしましょう。長尺のものは以下イラストのように使用することもできます。

ＯＦで流出油の拡散を防止し、回収できる量の油吸着材を使用する方法。



浮遊している油を長尺型の吸着材で包囲して回収する方法。

港内で岸壁の近くに油が浮遊している場合に、船舶１隻で回収する方法。

使用上の注意点としては、油吸着材の散布が、簡単な作業であることから、必要以上に散布されてしまうことです。

散布した吸着材は全量回収が原則です。OF 等で包囲しないと、油をたっぷり吸着した油吸着材が流れていき二次被害を発生させる可能性があります。

※油処理剤等との併用禁止

油処理剤は油を海中へ分散させて自然浄化の作用を促進するもので、一旦分散された油は油吸着材には吸着されません。従って同じ作業現場で油吸着材と油処理剤を併用することは厳禁です。

また、油回収装置やポンプを使用している現場では、これらの装置が油吸着材を吸い込んで故障する可能性があるので、同時使用を控えましょう。